

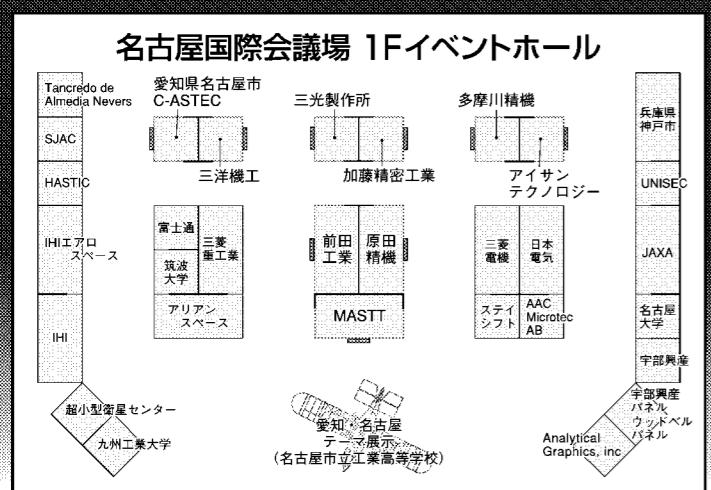
第29回宇宙技術および科学の国際シンポジウム

会期: 平成25年6月2日(日)~6月9日(日)

国内外の宇宙工業、宇宙科学、宇宙医学、宇宙法等広い分野の研究者、技術者、その他関係者が一堂に会し、研究発表および討論を行う場の提供などを目的に、隔年で開催される国際会議で、国際宇宙展示会(企業向け・一般向け)が併せて開催されます。

第29回ISTS 国際宇宙展示会

企 業 向 け	会 場: 名古屋国際会議場 会 期: 6月3日(月)~6月5日(水) 入場料: 無料	一 般 向 け	会 場: 名古屋市科学館 ※3日(月)は休館日 会 期: 6月2日(日)~6月9日(日) 入場料: 無料 ※科学館の観覧料は必要
------------------	--	------------------	--



宇宙航空研究開発機構(JAXA)による、小惑星探査機「はやぶさ」実物大模型の展示など宇宙航空分野の企画展示に併せて、工作教室等の教育イベントも実施されます。



■問合せ先
名古屋市市民経済局産業部 次世代産業振興課 TEL 052-972-2418

日本の宇宙開発

宇宙開発産業の育成は航空機産業とともに世界各
国の戦略分野で、技術波及効果などでも期待され
る。こうした中、6月2日から9日までの8日間、
宇宙開発分野国際会議 第29回宇宙技術および科
学の国際シンポジウム(ISTS)が名古屋市熱田

区の名古屋国際会議場で開かれる。主催は第29
回ISTS組織委員会と日本航空宇宙学会、共催は名古
屋大学。今回は開催日のうち3日から3日間、1階
イベントホールで宇宙開発関連企業や団体が出展す
る展示会もあり、関係者が集結する。



国内外でボーイング「787」が運航再開される



東京都における航空機産業への
参入支援事業「課題検討会」

近年、全国各地で上がった「ソノーシアム」は勉強会からスタートし、中核企業が中心となる共同受注スタイルの確立など少しづつ成果をみせていくこともある。行政の支援も増えており、例えば関東経済産業省は、東京都内に新たな航空宇宙産業室を設置。6月には官内閣連携により、東京の地域経済課の中に新たに「ソノーシアム」が立ち上げられた。これは、東京の地域経済課の中に新たに「ソノーシアム」が立ち上げられた。これは、東京の地域経済課の中に新たに「ソノーシアム」が立ち上げられた。

地域越え連携

また実際の受注確保には新機種の開発タイミングなど情報収集が必要となる。こうした中でサプライチェーンの構造変化も見逃せない。ボーリングなどの航空機メーカーが自社の製造領域を減らし、システィムインテグレーターやサプライヤーとの連携を呼びかける。海外連携を呼びかける。海外連携を呼びかける。

精密機械加工・精密歯車・減速機(設計・製作)
株式会社 明和工作所
JISQ9001, JISQ9100認証取得
MS BSK JAB BSK0271 BSKA0178
本社工場
航空宇宙認証JIS Q 9100取得
〒720-0017 福山市千田町4丁目14-12(協福山鉄工センター内)
TEL.084-955-2122 FAX.084-955-3597
TEL.0120-022122 FAX.0120-883597
URL: http://www.kk-miw.com E-mail: meiwa@kk-miw.com



Giga-HIP®

金属技術は、金属熱処理、接合、HIP処理など様々な特殊技術をモノづくりの基幹とし、機械加工技術を融合することによって、上流から下流まで一貫した受託加工を行なっており、液晶・半導体分野からエネルギー分野、さらには航空・宇宙分野まで幅広く手掛けております。2012年に新設した成田工場を拠点とし、Pratt & Whitney社との契約のもと、航空機用エンジン部品の修理事業を始めました。

これからも金属技術はHIPテクノロジーをはじめとする高い技術力をもって、社会・人・暮らしへの貢献を通じて、皆様に愛され、信頼される企業を目指し、たゆまぬ努力を続けてまいります。

超精密内径ラッピング加工機 SUPER LAPPER スーパーラッパー

精度とスピードへの信頼

1,000台以上の納入実績

株式会社トーヨー

〒470-0131 愛知県日進市岩崎町向伊田128の1
TEL(0561)73-3331 FAX(0561)74-1268

トーヨー スーパーラッパー

検索

http://www.toyo-japan.co.jp/

航空機産業

世界シェア獲得を目指して

海外と直取引へ



新興国での需要増などを背景にグローバルで注目される航空機市場の成長。2031年末には主力のジェット機だけで現状の倍規模の3万7000機近く運航する見込み。この市場をめぐり航空機産業には強い関心が寄せられ、国内では地域コンソーシアム拡充が進んでいます。中国、韓国など日本以上に国策で航空機産業の振興に積極的なところ、コスト競争も激化。日本の中堅・中小企業が本当にそぞろを広げていくのか重要な時期を迎えていく。

米ボーイングや欧州工アバースの増産計画の中、大手重工系経由の部品加工で実績を持つ企業は繁忙が強くなっています。日本企業が多く手がける大型機「777」や運航再開したばかりの中型機「787」関連など増産計画は自白押し。機械加工業者からは「表面処理機を増設して対応」「工場24時間稼働で量産加工手がける」などの声が多く聞かれます。

一方で今後の参入組合組織を組む企業にとってその障壁が大きく聞かれます。

一方で今後の参入組合組織を組む企業にとってその障壁